

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「朗読で表現しよう / さなぎたちの教室」 教材名「さなぎたちの教室」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、比喩や反復などの表現の工夫に気付き、その表現と受け止めた印象を対応させている。解釈した内容を声や間に表して音読や朗読をする。思考・判断・表現では、人物の関係や心情を本文で確かめ、表現の効果を考えて朗読を調整する。交流や試行の前後を比べ、朗読の構想と修正メモを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付き、その表現と受け止めた印象を対応させている。 解釈した内容を声や間に表して音読や朗読をしている。(〔知識及び技能〕(1)ク・〔知識及び技能〕(1)ケ)	①「読むこと」において、人物の関係や心情を本文で確かめ、表現の効果を考えて朗読を調整している。 (C(1)イ・C(2)イ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、表現の工夫と人物関係を踏まえる朗読を中心に学ぶ。人物の関係や心情を本文で確かめ、表現の効果を考えて朗読を調整する活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)ク・〔知識及び技能〕(1)ケとC(1)イ・C(2)イに関係する学習である。成果は、朗読の構想と修正メモに示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

予想される難しさは、演技の派手さだけで朗読を評価することである。根拠の表現と試した声の効果を聞き手の反応で確かめる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○表現の工夫と人物関係を踏まえる朗読に関する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す朗読の構想と修正メモの内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2～4 （本時は4時）	○人物の関係や心情を本文で確かめ、表現の効果を考えて朗読を調整する。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○この表現の効果を声でどう伝えるかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	5	○朗読の構想と修正メモを仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



6 本時の指導 (4/5)

(1) 本時の目標

人物の関係や心情を本文で確かめ、表現の効果を考えて朗読を調整することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「この表現の効果を声でどう伝えるか」 【めあて】表現の工夫と人物関係を踏まえる朗読について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・間を変えると人物の関係の受け止め方も変わる。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。演技の派手さだけで朗読を評価する姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 人物の関係や心情を本文で確かめ、表現の効果を考えて朗読を調整する。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「この表現の効果を声でどう伝えるか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 5 選んだ読み方で再度音読し、聞き手に伝わった様子を確かめる。 ○比喩や反復など本文に現にある表現を確かめ、その工夫が読み手に与える印象を検討する。該当しない表現のあるものとして扱わない。 〈予想される児童の反応〉 ・間を変えると人物の関係の受け止め方も変わる。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	根拠の表現と試した声の効果を聞き手の反応で確かめる。知識・技能では、比喩や反復などの表現の工夫に気付き、その表現と受け止めた印象を対応させている。解釈した内容を声や間に表して音読や朗読をしている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①人物の関係や心情を本文で確かめ、表現の効果を考えて朗読を調整している。(C(1)イ・C(2)イ) (本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明・実際の音読)
まとめ (分)	5 朗読の構想と修正メモを確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】音読では、本文の言葉や場面の様子を確かめ、その内容が伝わる声や間を選ぶ。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。この表現の効果を声でどう伝えるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知① (朗読の構想と修正メモと実際の言葉の使用) ・ 態① (単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、人物の関係や心情を本文で確かめ、表現の効果を考えて朗読を調整している姿である。本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明・実際の音読を基に判断する。演技の派手さだけで朗読を評価する場合は、根拠の表現と試した声の効果を聞き手の反応で確かめる。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には表現の工夫と人物関係を踏まえる朗読を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に朗読の構想と修正メモで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

